

令和6年11月5日  
消 防 庁

火災予防啓発映像「住宅における電気火災の原因と予防対策」の制作・発表

消防庁では、住宅火災の原因の上位を占める電気器具類による火災の低減を目的として、火災予防啓発映像「住宅における電気火災の原因と予防対策」を制作しました。

1 火災予防啓発映像制作の経緯

電気器具類による火災は毎年火災原因の上位を占めており、令和4年中の住宅火災件数10,783件（放火を除く。）のうち、電気器具類による火災は2,018件と約19%を占め、住宅火災原因の1位となっています。

このような状況を踏まえ、消防庁では令和5年度に「住宅における電気火災に係る防火安全対策検討会（以下「検討会」という。）」を開催し、発火源となった機器、出火に至る経緯、被害を生じた要因等について調査・分析を実施しました。

検討会の調査・分析結果から火災や死傷者数の低減を図るため、具体的な予防策の広報等を行うことを目的として本映像資料を制作しました。

2 火災予防啓発映像の内容

本映像資料は、検討会で調査・分析された内容を基に、電気器具類による火災や死傷者数の低減を目的として、電気器具類による火災の原因、火災を防ぐポイントなどをわかりやすく紹介しております。（別添参照）

3 展開

本映像資料は、自由に視聴が可能となるよう、消防庁ホームページに掲載するほか、各種メディア、全国の消防機関等を通じて、幅広く活用していただくこととしております。



【問い合わせ先】  
消防庁予防課 川合・泉・高木  
TEL：03-5253-7523  
E-mail:yobo\_atmark\_ml.soumu.go.jp  
※スパムメール対策のため、「@」を「\_atmark\_」と表示しております。送信の際には、「@」に変更してください。

<消防庁ホームページ URL>

[https://www.fdma.go.jp/relocation/html/life/yobou\\_contents/materials/](https://www.fdma.go.jp/relocation/html/life/yobou_contents/materials/)



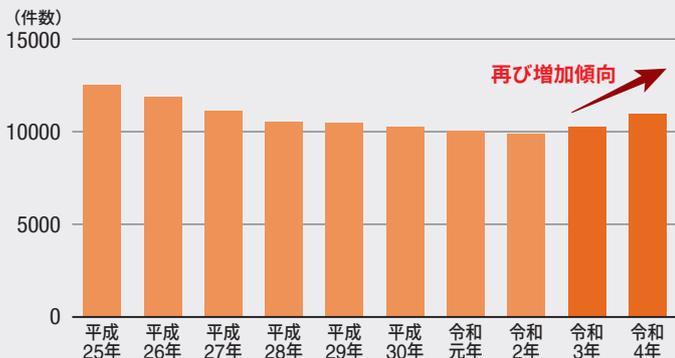
# 住宅における電気火災に注意



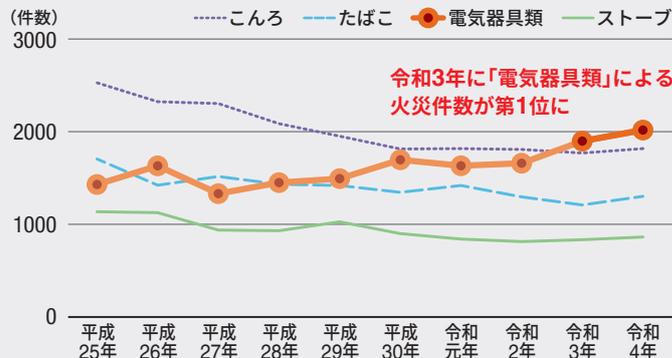
## 近年の住宅火災の傾向

近年、**電気器具類を発火源とする住宅火災の件数が増加**しています。

住宅火災件数の推移



住宅火災における発火源別火災件数の推移



住宅における電気器具類を発火源とする火災について調査・分析した結果、以下の**3つが主な出火原因**であることがわかりました。

## 充電式電池・リチウム電池

近年火災原因として増加が著しいのが、モバイルバッテリーのように**繰り返し使える充電式電池**です。以下のような火災事例があります。

### ▶ 電池を捨てる際に、適切に処理せず発火

リチウム電池では、電池を処分する際に絶縁テープなどで絶縁処理をしないと、電池同士が接触により放電して発火する場合があります。



### ▶ 暖房機器で暖められ、内部に熱がこもり発火

充電式電池を暖房機器近くに置くなどして暖めると、内部に熱がこもり電池を損傷させ発火する場合があります。



### ▶ 水に落としたことによる発火

洗面所などで水に水没させた場合、内側に水がしみ込み、異常が生じ、通電時に内部でショートして発火する場合があります。



### ▶ 落下による発火

落下などにより、大きな衝撃が加わると、変形や電池内部の損傷により、発火することがあります。



### ▶ 低温下で充電したために発火

低温下での電池の充電は、電池に損傷を与える恐れがあり、発火に至る可能性があります。



## 火災予防対策とまとめ

充電式電池は、説明書をしっかり確認し使用方法を守るとともに、電池をぶつけたり、濡らすなどしてしまった時は、電池に異常がないかしっかり確認し、電池が膨らむなど少しでも異常があれば、使用をやめましょう。充電式電池は近年使用が増え、それに伴い火災件数も増えていきます。原因は様々で、使用方法の不備や改造、製品の不良などがあります。PSEマークが表示されているかなどを確認し、一定の安全が確保されているものを使用し、火災を起こさないようにしましょう。

# 家電製品

電子レンジ等の家電製品は、**不適切な使用によって火災に至る**場合があります。

## ▶▶ 食品の加熱のしすぎにより発火

食品を電子レンジで加熱しすぎると、水分が蒸発し炭化して発火します。電子レンジで焼き芋を作るレシピなどが紹介されていますが、レンジ調理は場合によっては火災につながることを覚えておきましょう。



## ▶▶ アルミ包装がスパークにより発火

アルミなどの金属が使われた容器や、袋などを電子レンジで加熱すると、スパークを起こし、発火する場合があります。ホーロー製の容器なども電子レンジで使用できるか確認が必要です。



## ▶▶ 油汚れにより発火

電子レンジ内の掃除を怠り、油汚れなどを放置していると、炭化し急に発火する場合があります。



## ▶▶ 清掃時の不注意により発火(エアコン)

エアコンの清掃中に誤って洗浄液を電気配線にかけてしまい、拭き取ることなく稼働させると、配線がショートし発火する場合があります。



## 火災予防対策とまとめ

家電製品も使用方法を誤れば、火災につながります。電子レンジでは、長時間の加熱に気をつける。温めるものに金属性のものがないか確認する。こまめな清掃を行う。など、適切な使用と適切な維持管理を心がけましょう。

# プラグ・コード類

多くの電化製品に共通する、**プラグ・コード類でも多くの火災が発生**しています。

## ▶▶ 折れ曲がりによる発火

コードを強く折り曲げ使用していると、内部の配線が部分的に断線し、その部分が発熱し発火する場合があります。



## ▶▶ 差し込み不足により発火

プラグが完全に差し込まれていない状態で使用していると、電気抵抗が増してしまい、プラグが加熱されます。この状態が続くと急に発火する場合があります。



## ▶▶ トラッキングによる発火

プラグを長期間差し込んだままにしておくと、ほこりや湿気により、火花放電を繰り返し、やがて火災に至る場合があります。(トラッキング火災)



## ▶▶ 踏みつけにより発火

コードを踏みつけている場合にも、折り曲げと同じように、踏まれている部分が発熱し、発火する場合があります。



## ▶▶ たこ足配線により発火

延長コード・タップにたこ足配線をするすると、タップの定格電流を上回る電流が流れ込み発熱し、この状態が続くことで発火する場合があります。



## ▶▶ 束ねていたことにより発火

コードを束ねたり、巻き付けた状態で使用していると、束ねている部分に熱がこもり、発火する場合があります。



## 火災予防対策とまとめ

プラグ、プラグの差し込み口には、ホコリなどのゴミがたまっていないか確認しましょう。日頃から配線の状態、差し込み状況などを確認し、タップは定格電流を超えないよう管理しましょう。経年劣化により緩くなった受け口、ぐらつく差し刃なども、発火する可能性があるため、抜き差しをして確認しましょう。プラグ・コード類は、家具などの物陰にあることが多く、日頃から気にすることは少ないと思います。点検を行い、異常を見つけ、火災を防ぎましょう。

## まとめ

電気器具類が原因となる火災は年々増加しています。現代社会では多種多様な電化製品が作り出され、電気器具類の火災のリスクは、常に存在しています。私たちの生活の身近には、常に火災のリスクが潜んでいることを忘れずに、適切な使用・維持管理に努めていきましょう。



消防庁のホームページにて動画で解説!